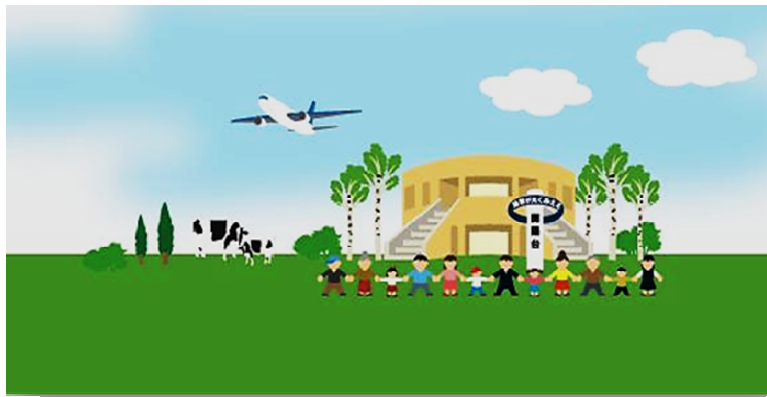


平成 28 年度

町 長 所 信 表 明
(町 政 執 行 方 針)



平成 28 年 10 月



中 標 津 町

目 次

I. はじめに	1
II. 自治体を取り巻く環境	2
III. 町政に取り組む決意	2
IV. 主要な施策（7項目）	3
1. 産業	4
2. 観光	5
3. 教育	5
4. 環境	6
5. 医療・福祉・子育て支援	7
6. 雇用	8
7. 交流	8
V. 道東の責任ある町へ	10
VI. むすび	11

平成 28 年第 3 回中標津町臨時議会の開会にあたり、町民に選ばれ公職者となられた町議会議員 18 名の皆様、さらには議場に足を運んでいただいた傍聴席の皆様を前に、町政運営の所信の一端を申し述べる機会をいただきました事に、心よりお礼申し上げます。

I. はじめに

8 月 21 日に行われました町長選挙におきまして、当選の栄を受け、中標津町長に就任いたしました「西村 穰」です。

多くの町民の皆様から寄せられた懸案や期待に対し、町政運営を 4 年間預かる責任の重さを日々痛感しております。

私は、人口減少が進む時代の中で、「町民と一緒に考え、共に作るバランスのよいまちづくり」を基本に「住みやすさナンバーワンのまち」を目指し、町民の期待に応えられるよう、今後 4 年間全力で取り組みを進めてまいります。

議案審議前の貴重な時間を頂きましたので、当面する町政の諸課題や政策の基本方針について申し上げます。

Ⅱ. 自治体を取り巻く環境

全国的な人口減少と少子高齢化は、本町においても例外ではなく、定住人口と交流人口の拡大や子育て支援、高齢者福祉の拡充強化など、多くの取り組みが求められております。

これらの課題解決のため、長期的視点に立って、中標津のあるべき姿と進むべき道をしっかり見定め、町民の皆様並びに議会議員の皆様との共通の認識と理解の下に、各種の施策に取り組んでまいります。

国・地方の財政はともに厳しい状況にありますが、効率的かつ効果的な行財政運営を実行し、将来世代に過重な負担を残さない、持続可能な財政基盤を築いてまいります。

また近年、大規模な自然災害が多発する中で、この地域の環境対策や防災・減災など、自治体としての役割を果たしていくことが大切であると考えております。

Ⅲ. 町政に取り組む決意

住みやすさに定評がある中標津をさらに発展させるためには、人口の減少が緩やかな今から対策を行う必要があります。

そのためには「医療・福祉が充実し、お年寄りが安心して
住み続けられるまち」「働く場所と充実した子育て支援の環
境があり、若者が住み続けたいと思えるまち」そして「教育・
文化レベルが高く、活気があり楽しいまち」であると町民の
皆様が、感じられるまちづくりを行ってまいります。

私は、中標津町と町民一人ひとりの幸せを守り続けるため
に、町民と同じ目線で会話・議論をしながら、様々な課題の
解決に粉骨砕身の覚悟で取り組んでまいります。

IV. 主要な施策

私の政策の基本となる考え方は、利便性が高く住みやすい
という「中標津らしさ」を継続させることです。そのために
産業振興による定住人口増と観光視点による交流人口増を
重要政策として考えております。

そこで、「基幹となる産業（農業・商工業）の振興を図り、
競争力を高める」「町民が住みやすく、豊かな生活環境をつ
くり発展させる」「子どもたちが夢をもち、高齢者が安心し
て生活できるまちをつくる」「広域連携を図り、中標津ブラ

ンドを全国に発信する」という四本の柱を基本理念として掲げ、主要施策の7項目「産業、観光、教育、環境、医療・福祉・子育て支援、雇用、交流」を中心に、職員と一丸となり取り組んでまいります。

1. 産業

基幹産業である農業を充実させるために、農業生産基盤の強化と担い手の育成・確保に努めてまいります。

農畜産物の地域ブランドの確立に努め、ふるさと納税制度の拡充展開とあわせて、特産品を町外・道外へ積極的にPRするとともに、優良カラマツ材や間伐材の地材地消を目指し、住宅や公共施設などへの利用拡大と高付加価値化を推進してまいります。

地元中小企業の振興につきましては、企業の積極的な投資と雇用を促すための支援策を充実させてまいります。

また、広域的な食材利用による製造業の起業を促す取り組みを進め、雇用の場の拡大に努めてまいります。

2. 観光

交流人口を増やすための方策を立てる必要があります。その一つとして、ひがし北海道の玄関口でもある中標津空港の就航路線を拡大し、海外も視野に入れた観光客誘致に取り組んでまいります。

また、交通の要衝という特徴を活かし、お客様への「おもてなし」を充実させた体験・滞在型観光の推進、開陽台や開湯 100 年を迎えた養老牛温泉など既存の観光資源の P R 活動を積極的に進めることや、空港の名称変更・温泉市街地構想について積極的に議論するなど、観光客を増加させる策を講じてまいります。

3. 教育

子どもは、将来の中標津町や日本を担う大切な宝であります。社会で活躍できる優秀な人材を育てるために、質の高い教育環境づくりを推進してまいります。

また、「地域の子どもたちを地域全体で育てる」という視点に立ち、関係団体などとも連携し、中標津町の地域教育力

の向上を目指してまいります。

中標津農業高等学校につきましては、農業系大学や畜産食品加工研修センターなどと連携し、環境保全型の農業や高度先端技術を生かした教育内容の工夫・改善に努め、特色ある学校づくりを進めてまいります。

4. 環境

大規模な自然災害に備え、普段から防災知識の普及啓発や防災訓練などを行い、町民の防災意識と災害対応能力を高め、地域防災力の向上を図ってまいります。

インフラ整備につきましては、住民生活の利便性を向上させるために、道路整備5箇年計画に基づき、舗装整備を進めてまいります。

また、再生可能エネルギーを活用した施策として、バイオマス資源でありこの地特有の家畜排せつ物や太陽光・地熱など、地域資源を最大限活用した地産地消型や地域循環型のエネルギーシステムの構築を目指してまいります。

5. 医療・福祉・子育て支援

町立中標津病院は地域センター病院であり、北根室地域の中核病院として本町の住民はもとより、近隣住民に対しても安全で安心な医療を提供していかなければなりません。

今後とも地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくために、経営の健全化は重要であり、本年度中に経営の効率化や経営形態の見直しなどを盛り込んだ新町立病院改革プランを策定し、持続可能な経営を目指してまいります。また、常勤医師の確保が厳しい状況の中、道内の医育大学の協力を得て、医師確保に取り組んでまいります。

障がいのある人が地域でいきいきと暮らしていくためには、それぞれの意欲・能力に応じた就労などの社会参加が必要であると考えております。そのために、相談支援の充実や就労支援の強化に取り組んでまいります。

また、生涯現役社会の実現に向けた高齢者の就労促進や老人クラブ活動の活性化支援、生涯学習の機会拡充など、高齢者が生きがいを感じ、安心して元気に生活が送れるよう、自立を支援してまいります。

子育て支援につきましては、すべての親が安心して子育てができる、また子どもたちが地域の方々の笑顔に支えられながら健やかに成長できるよう、地域で子育てをサポートする相互援助活動を促進し、総合的な子育て支援体制の充実を図ってまいります。

6. 雇用

人口を維持するためには雇用の場の確保が重要であり、新規産業展開と起業への支援を行ってまいります。

基幹産業である農業や観光業、卸売業、小売業をはじめとして、本町の全ての産業がそれぞれ競争力を高め、雇用の場が広がっていくよう必要な対策を進めてまいります。

また、季節労働者に対する失業期間への支援や企業誘致・設備投資に対する支援など、地域の雇用確保と雇用創出に向けた取り組みを進めてまいります。

7. 交流

大学との連携協定による交流活動や児童生徒・企業・団体

等を含めた幅広い交流を継続的に取り組んでまいります。

若い世代の結婚対策・婚活支援につきましては、基幹産業を支える農業青年をはじめ、結婚を望む人たちの出会いの場となる交流イベントを積極的に行い、住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを進めてまいります。

新体育館につきましては、町民のスポーツ活動と健康づくりの拠点として、活用・充実に取り組むとともに、各種大会の誘致を積極的に進めてまいります。

また、2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップと2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致活動にも積極的に取り組んでまいります。

さらに、高校野球の大会やプロ野球の試合の招致が可能な新野球場構想について、調査研究を行ってまいります。

北方領土問題につきましては、今年こそ返還・解決に向けた「新たなアプローチ」で進展することを期待し、ビザなし交流事業や医療支援事業など、早期返還に向けた取り組みの継続と隣接地域としての新たな展開を目指してまいります。

V. 道東の責任ある町へ

中標津町の先人たちは、厳しい北国の気象条件の中、人跡未踏の大自然を切り開いてきました。時には冷害凶作の大きな被害を受けながらも、不屈の精神をもってこれを克服し、この地で生きるために苦難を重ねながら、今日の確固たる基礎を築き上げました。

そのたゆまぬ努力が、この地に酪農業を主体とした特色ある産業構造を確立させ、安定した社会経済の基盤を築き、中標津町を名実ともに根室内陸の中核都市にするまでに至りました。

そして今もなお、周辺市町村にも存在感のある町となっています。

今後この役割を担い続けるために、産業振興や雇用の場の創出などに努めるとともに、地域全体の発展を考えた広域連携を進め、人口減少に歯止めをかけるダムの機能の役割を果たしてまいります。

VI. むすび

以上、町政運営を担うにあたり、私の所信の一端を述べさせていただきます。

本町は昨年、国勢調査開始以来、初の人口減少となりました。こうした時代の流れの中で、将来、中標津が中標津らしく存続することができるよう、それぞれの世代が力を合わせ乗り切っていかなければなりません。

私は、情熱、行動力、そして決断力を持ち、中標津町が今後も、「あつまるまち・つながるまち・ひろがるまち」として存在できるよう、中標津らしさの追求と「住みやすさナンバーワンのまち」を目指し、バランスの良いまちづくりのために英知を結集し、邁進していく所存でございます。

新しい構成になりました 18 名の町議会議員の皆様と町民の皆様、格段のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げ、町長就任の所信とさせていただきます。